毎月一回発行

Oita Prefectural Hospital 大分県立病院 みなさんと診療科をつなぐ架け橋 平成 28 年 12 月 第 101 号

県病医療ニュース

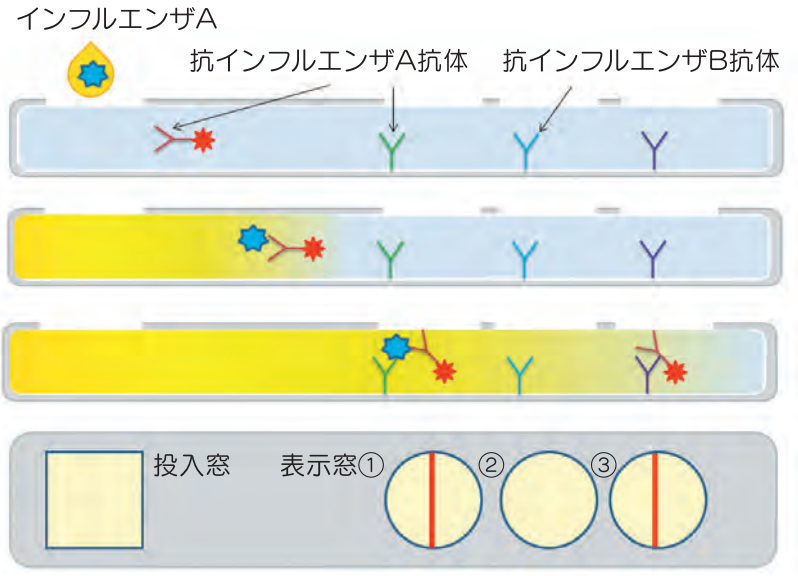
〒870−8511 大分市大字豊饒476番地 TEL097−546−7111（代表）内線7407：県病ニュース係
※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ホームページまたは、1階中央待合ホール備付けのアンケート用紙をご利用ください。

臨床検査科 検査研究部

インフルエンザ 迅速診断キットのしくみ

冬場になるとインフルエンザに罹（かか）る方が増えてきます。インフルエンザの診断には、鼻の奥を綿棒でぬぐったものを用いますが、このぬぐい液からインフルエンザウイルスを検出するのが迅速診断キットです。わずか10～15分間で結果が出ることもあって、日常診療に欠かせないものになっています。今回はこのキットのしくみをご紹介します。

キットは体温計ぐらいの大きさで、ぬぐい液を投入する窓のほかに、結果を表示する窓が3つあります。ぬぐい液に含まれているインフルエンザA型ウイルスは、金粒子を付けた抗A型ウイルス抗体と結合して内部を流れ、表示窓①に到達します。表示窓①には抗A型ウイルス抗体を線状に固定してあるので、ウイルスはここで捕まり金粒子が線状に並びます。金粒子は集まると赤色になる特性があるため、表示窓①に赤い線が出現します。インフルエンザB型も同様で、表示窓②に線が出ればB型と診断できます。投入窓から最も遠い表示窓③には、金粒子が付いた抗体を捕まえる抗体があります。投入量不足を検出するためのもので、表示窓③に線が出れば投入量は十分だったとわかります。



A型陽性と判定

この測定法は、肺炎球菌やマイコプラズマなどの診断や薬局で市販されている妊娠検査キットにも利用されています。このような外来でも手軽にできる検査は臨床現場即時検査（POCT, Point of Care Testing）と呼ばれ、診療の迅速化をもたらすものとして注目されています。

（臨床検査科検査研究部　部長　加島健司）

※掲載内容の詳細は各科外来・各病棟でお尋ねください。

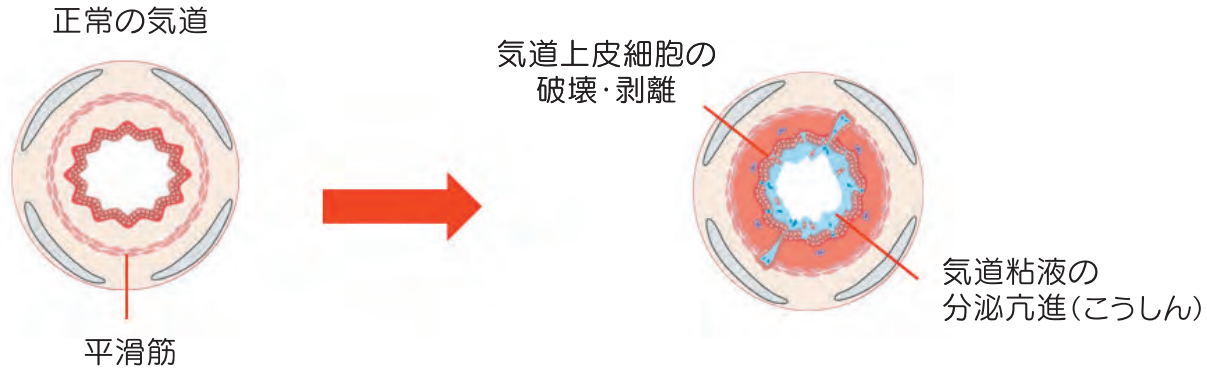
（裏面をご覧ください）

呼吸器内科　その咳、喘息（ぜんそく）ではありませんか?

毎年同じ季節に咳が出る、夜や明け方になると咳で眠れない、冷たい風に当たると咳き込むなどの症状がある場合は気管支喘息の症状かもしれません。

気管支喘息とは気道（空気の通り道）の炎症によって気道が狭くなる病気（図1）で、ヒューヒューといった呼吸（喘鳴（ぜんめい））や息苦しさ、空咳が特徴です。咳喘息は喘鳴を伴わない空咳が3週間以上続くことが特徴的な、気管支喘息との関連がある病気であり、適切な治療をおこなわないと約3割の人が気管支喘息に移行するといわれています。

図1：気道の変化



気管支喘息が起こると様々な原因により空気の通り道が狭くなります。
適切な治療を行わない場合、呼吸困難を生じる可能性があります。

気管支喘息は子供の病気と思われるかもしれませんが、実際は喘息患者のうち40歳以上で発症した人が30％以上いるとされています。これまで喘息が無くても、初めて発症している可能性もあるのです。

気道の炎症が長くなると気道の壁が徐々に厚くなり難治性の喘息となってしまうため、喘息は軽いうちに早めの治療をお勧めします。

また咳だけの症状で受診した方のうち、実際に検査をしてみると肺炎や結核、肺癌などが見つかる方もいるため、咳が続く場合には医療機関での検査を受けてみてはいかがでしょうか。

（呼吸器内科　菅貴将）

※掲載内容の詳細は各科外来・各病棟でお尋ねください。

（裏面をご覧ください）